

平成20年10月9日

会社名 株式会社横浜銀行

代表者名 頭取 小川 是

(コード番号 8332 東証第一部)

業績予想の修正に関するお知らせ

当行は、平成21年3月期第2四半期および平成21年3月期通期の業績予想について、別紙のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

平成20年10月9日

各 位

上場会社名 株式会社 横浜銀行
 代表者 頭取 小川 是
 (コード番号 8332)
 問合せ先責任者 経営企画部主計室長 前川 洋二
 (TEL 045-225-1111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	経常収益	経常利益	中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	167,000	55,500	33,000	24.08
今回発表予想(B)	177,000	23,500	14,500	10.66
増減額(B-A)	10,000	△32,000	△18,500	――
増減率(%)	6.0	△57.7	△56.1	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	144,001	56,174	34,645	24.97

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	345,000	113,000	68,000	49.63
今回発表予想(B)	350,000	68,000	42,500	31.25
増減額(B-A)	5,000	△45,000	△25,500	――
増減率(%)	1.4	△39.8	△37.5	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	317,949	111,810	68,270	49.52

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	経常収益	経常利益	中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	145,000	53,500	32,500	23.72
今回発表予想(B)	155,000	25,000	15,500	11.39
増減額(B-A)	10,000	△28,500	△17,000	――
増減率(%)	6.9	△53.3	△52.3	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	141,865	55,814	34,092	24.57

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	300,000	109,000	66,500	48.53
今回発表予想(B)	305,000	68,500	43,000	31.62
増減額(B-A)	5,000	△40,500	△23,500	――
増減率(%)	1.7	△37.2	△35.3	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	293,098	109,874	66,468	48.21

修正の理由

不動産・建設業を中心とした景気減速感の強まりを受け、与信費用の増加を見込むことなどから、平成21年3月期第2四半期累計期間の経常利益及び中間純利益を前回発表予想に対し下方修正するものです。

また、平成21年3月期通期の業績予想につきましても、与信費用の発生を保守的に見積もり、経常利益及び当期純利益を前回発表予想に対し下方修正いたします。

以 上

別紙

(ご参考)

業績予想修正の概要（単体）＜速報値＞

(単位：億円)

	第2四半期累計期間			通期		
	前回発表 予想	今回修正 予想	増減	前回発表 予想	今回修正 予想	増減
業務粗利益	1,155	1,130	△25	2,340	2,295	△45
経費(△)	515	515	0	1,040	1,040	0
実質業務純益	640	615	△25	1,300	1,255	△45
一般貸倒引当金繰入額(△)	0	90	90	0	130	130
業務純益	640	525	△115	1,300	1,125	△175
臨時損益	△105	△275	△170	△210	△440	△230
うち不良債権処理額(△)	95	300	205	180	440	260
うち株式等関係損益	10	51	41	20	51	31
経常利益	535	250	△285	1,090	685	△405
当期(中間)純利益	325	155	△170	665	430	△235
与信費用(△)	95	390	295	180	570	390

主な要因

(1) 業務粗利益

資金利益については、住宅ローンの積上げ等により順調に推移しておりますが、一方で、市況の悪化に伴う投資信託販売の低迷やデリバティブ関係損益の減少等により、第2四半期累計期間の業務粗利益は、前回予想比25億円減少を見込んでおります。なお、前年同期比では、28億円の増加見込みであります。

通期についても、先行きの不透明感から、企業貸出の伸びの鈍化や投資信託販売の低迷が予想されることから、業務粗利益は、前回予想比45億円の減少を見込んでおります。なお、前年同期比では、54億円の増加を見込んでおります。

(2) 与信費用

国内外の景気低迷にともなう不動産・建設業を中心とした取引先の倒産や業況悪化を踏まえ、保守的に貸倒引当金の積増しをおこなうことなどから、第2四半期累計期間の与信費用は、前回予想比295億円増加の390億円を見込んでおります。

また、第2四半期累計期間では、おもに不動産・建設業の倒産が集中しましたが、より一層の保全の強化などにより与信費用の圧縮をはかっていくことから、第3・4四半期は、第2四半期累計期間の見込みのほぼ半分の180億円（前回予想比95億円増加）を見込んでおります。

以上により、通期は、前回予想比390億円増加の570億円を見込んでおります。